

令和3年度 体育科3年生スケート実習

ウィンタースポーツとして広く親しまれているスケートの基本を理解しながら、生涯にわたってスケートに親しむ態度を育成することを目的に、11月25日（木）からスケート実習がスタートしました。場所は山形市総合スポーツセンタースケート場です。



卒業生のウィリアムソン師円選手が在籍している日本電産サンキョー（加藤条治選手も在籍していました）スケート部監督の今村敏明さんは『オリンピックで金、銀、銅の

3つのメダルを獲得し、500mの世界記録を4度も塗り替えた清水宏保ですら、刻々と表情を変える氷には手を焼いた。』と「崖っぷち監督」がメダリストを二人生むまでという本のなかで述べています。本のなかで清水選手は「氷は生きている」と表現されています。

ここで、加藤条治選手とウィリアムソン師円選手の卒業論文（高校在籍中に行ったスケートの研究）に書かれてあった内容を紹介します。

ウィリアムソン師円選手

世界に比べて劣らないようにするために自分の100%に近い力をより効率よく「氷に伝えていく」ための技術を自分で滑りながら身につけていくことが、無駄なく加速する。

加藤条治選手

私は小学校一年生から始めたスピードスケートに人生を賭けている。オリンピックが夢ではなく目標と変わった今、この研究を通し、さらなる向上を目指したい。・・・

・・・しっかり体重移動をし、一步一步「氷に力が伝える」ことが大切である。

ともに「氷に伝える」というキーワードを出しています。

3年生の皆さんも、氷に乗った瞬間に「今日はしっくりくる」「ブレードが氷に噛まない」など『自然の偉大さ』を感じられることができれば、大変素晴らしいことだと思います。



天候の悪い日もありましたが、山形県スケート連盟の方々にはどんな状況でも熱いご指導を頂きまして、ありがとうございます。山形市スポーツ協会の皆様、集合場所のセッティングやスケート靴のレンタル作業など、様々な場面でご丁寧な対応をありがとうございました。最終日（12月9日）まで、大変お世話になりますが、ご指導よろしくお願ひ致します。